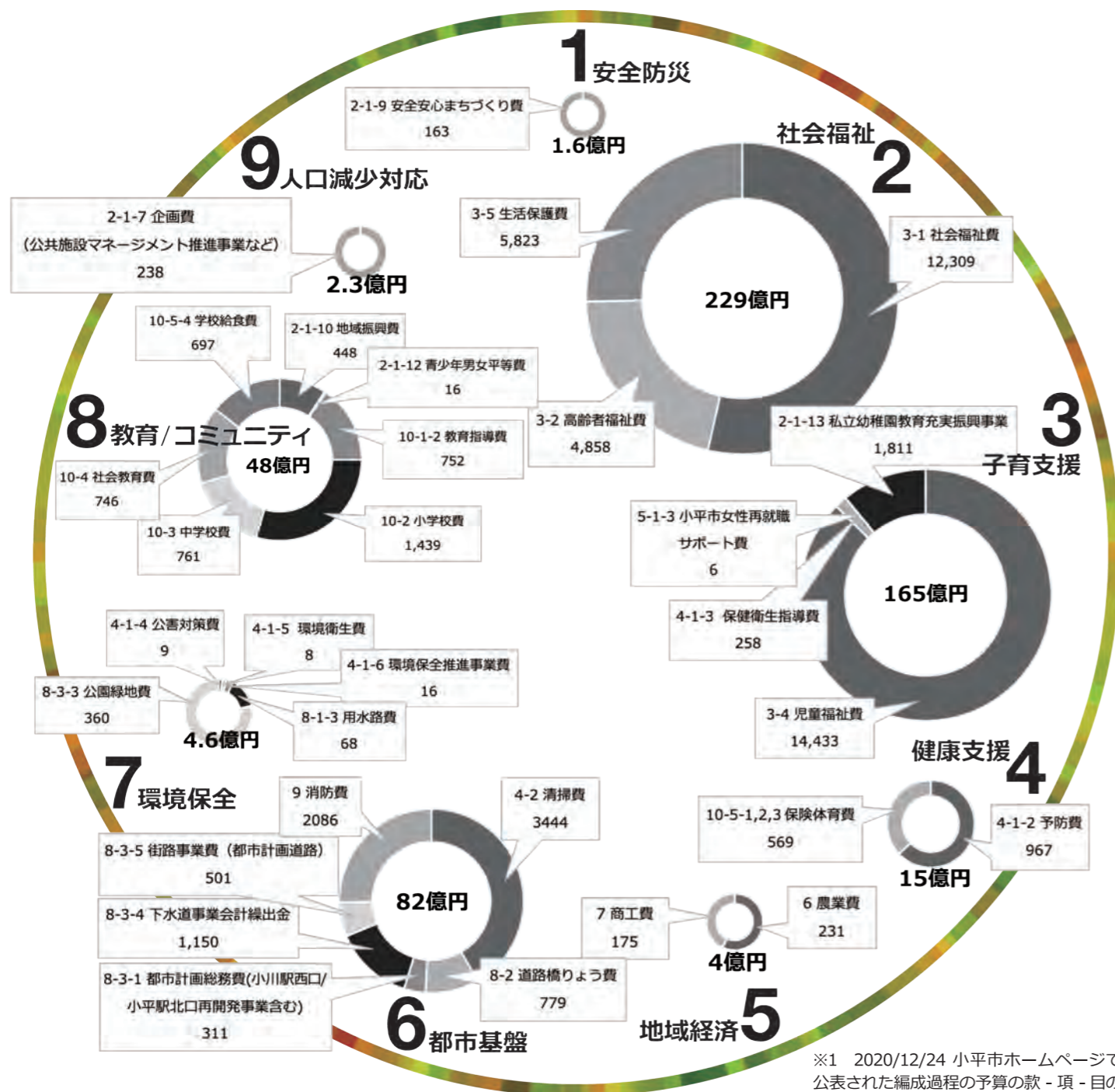


まちづくり9つのキーワードと小平市の2021年度予算編成過程の予算(※1)

小平市が令和3年度一般会計予算編成状況(2020/12/24 小平市公表)として発表している歳入の見込みによれば、2021年度は、2020年の市税収入約307億円から約283億円と、26億円、7.7%減少する見込みです。一方、社会福祉、高齢者福祉、児童福祉などの民生費(福祉)予算は、2010年の244億円から2020年の371億円まで

1.5倍に増大していますが、引きつづき労働人口の減少、高齢人口の増加傾向が続く中で、民生費(福祉)予算の増大は続き、そのほかの予算を増やすのは難しい状況です。新しい市長は、優先度をつけて予算編成していく必要があります、その役割はとも重要で、市民からの期待は大きいです。



※1 2020/12/24 小平市ホームページで公表された編成過程の予算の款・項・目の予算額より上記9項目に関係する金額の大きいものを抜粋、百万円以下切り捨て。



新型コロナウイルス、新しいリーダーへの期待

2020年は、突然襲いかかってきた新型コロナウイルスの脅威による混乱の一年でした。感染対策としてのテレワークによる働き方の変化や、人々に求められる「新しい日常」のなかでの生活の変化は、住まいに対する考え方にも少なからず影響を与えることとなります。今一度この現状を捉え直して、予算編成も含めてまちづくりを考えていく必要があります。

国の新型コロナウイルス対策予算、一人10万円の定額給付金による約200億円の予算が大きいですが、小平市の2020年度一般会計予算は約940億円(12月議決7号補正予算まで)と、昨年の予算670億円台から1.4倍に膨れ上がりました。国及び都から新型コロナウイルス対策として自由度の高い形で支給された地方創生臨時交付金などの予算として割り振られた補正予算の使い方について市議会で審議されましたが、使い方をめぐって予算組み換え動議が提出されるなど市議会は紛糾しました。

新型コロナウイルスの脅威はいつ収束するかは誰にもわかりません。収束したとしても同様なリスクに備え、人との不要な接触は避けるなど人々の行動様式は変わり、完全にはもとに戻らないとの意見があります。2021年度も、市民の生活、産業、教育・行政サービスなどを新型コロナウイルス感染対策するとともに「新しい日常」へ対応していく必要があります。

市長選立候補予定者に市政にかける意気込みを伺いました。

公開アンケート内容

- Q1 市長として注力すべき政策について
- Q2 10年後のまちづくりのビジョン
- Q3 新型コロナウイルス対策について、もしあなたが市長だったら
- Q4 公民館の利用料の見直しについて
- Q5 公共施設マネージメント(公共施設に再編)について
- Q6 女性の活躍、男女共同参画センター“ひらく”について
- Q7 小平市の都市農地の保全について
- Q8 小平駅北口再開発について
- Q9 都市計画道路の整備について

※Q3~Q9の回答はこちらのサイトからご覧いただけます。



「わたしたちのまちのつくり方」で検索してください。

4月4日(日) 小平市長選に行こう!

期日前投票も可能です。

3月29日(月)~4月3日(土) 8:30~20:00 健康センター4階

3月31日(水)~4月2日(金) 8:30~20:00 4月3日(土) 8:30~17:00 東部市民センター

3月31日(水)~4月2日(金) 8:30~20:00 西部市民センター

発行: わたしたちのまちのつくり方

問い合わせ先: 神尾直志 (080-5071-0255)

E-mail: kamihoo2011@gmail.com

ブログ: <http://watahimachi.main.jp>